

September 11, 2019

## 【前日の為替概況】ドル円、続伸 「日銀が金融緩和の是非議論」との観測報道が伝わる

10日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は107.54円と前営業日NY終値(107.24円)と比べて30銭程度のドル高水準だった。「日銀は18-19日の金融政策決定会合で金融緩和の是非について議論する」との観測報道が伝わると円売り・ドル買いが先行し、一時107.49円付近まで値を上げたものの、東京時間の高値107.50円の上抜けに失敗すると107.19円付近まで失速した。ダウ平均が一時110ドル超下落したことも相場の重し。

ただ、下値も堅かった。「中国は米国の対中制裁関税の延期と通信大手ファーウェイに対する制裁緩和を条件に、米国の農産物を購入する方針」との報道が伝わると、米中通商協議の進展期待が高まり円売り・ドル買いが再び優勢に。ダウ平均がプラス圏を回復したことも相場の下支え要因となり、一時107.59円と8月1日以来の高値を更新した。米10年債利回りが1.74%台まで急伸したことも相場の支援材料。

なお、トランプ米大統領がツイッターで「ボルトン米大統領補佐官(国家安全保障担当)の解任」を表明すると、伸び悩む場面もあったが下押しは限定的だった。

ユーロドルは小反落。終値は1.1043ドルと前営業日NY終値(1.1048ドル)と比べて0.0005ドル程度のユーロ安水準だった。米長期金利の上昇に伴うユーロ売り・ドル買いが出て、23時30分前に一時1.1031ドルと日通し安値を付けたものの、12日に欧州中央銀行(ECB)定例理事会を控えて総じて方向感に乏しい展開だった。今日の高値は日本時間夕刻に付けた1.1060ドルで値幅は0.0029ドル程度と小さかった。

ユーロ円は続伸。終値は118.76円と前営業日NY終値(118.47円)と比べて29銭程度のユーロ高水準。12日に欧金融イベントを控えていることもあってしばらくは方向感に乏しい展開が続いていたが、引けにかけて強含んだ。ドル円の上昇につれた円売り・ユーロ買いがじわりと強まり、5時30分過ぎに一時118.79円と日通し高値を付けた。

## 【本日の東京為替見通し】ドル円、リスクオンムードを背景に堅調推移か

本日の東京市場のドル円は、リスクオンムードを背景に堅調推移が予想されるものの、来週17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での第2次追加利下げが確実視されていることで上値は限定的か。

ドル円の短期的なテクニカル分析では、8月26日に年初来安値104.46円を付けて以来、陽線新高値5手で一目均衡表・雲の中(下限:107.41円・上限:107.72円)に入っており、一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回っていることで、雲を上抜けた場合は、三役好転の強い買いシグナルが点灯する。

円売り要因となっているリスクオンは以下の通りとなる。

- ・来週の米中(実務者)通商協議で進展が期待されていること
- ・来週の日銀金融政策決定会合で金融緩和が検討される見通し(※黒田日銀総裁:マイナス金利の深堀り示唆)
- ・中国人民銀行が預金準備率を引き下げ、さらに追加引き下げを示唆していること
- ・英国の合意なきEU離脱への警戒感が後退していること
- ・リセッション(景気後退)懸念が高まるドイツが財政出動を示唆していること
- ・トランプ政権の強硬派ボルトン米大統領補佐官が解任されたこと(地政学リスク後退)

円買い要因としてのリスクシナリオは以下の通りとなる。

- ・17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での第2次追加利下げ(0.25%か0.50%)
- ・米中通商協議では、為替相場と為替操作が協議される(ムニューシン米財務長官)
- ・米債券市場の逆イールドがリセッション(景気後退)を警告していること
- ・香港の抗議デモが継続していること

ドル円の中期的なテクニカル分析では、ドル円のこれまでの年間最少変動幅は約10円なので、112.40円が年間高値ならば安値は102.40円付近、104.46円が年間安値ならば、高値は114.46円付近となる。年末に向けて、114.46円と102.40円の可能性を念頭に置きながら、トランプ米大統領と習中国国家主席、そしてパウエルFRB議長とのチキンレースを見極めていくことになる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 7-9月期法人企業景気予測調査（予想：▲1.0）
- 内閣改造・自民党役員人事

## &lt;海外&gt;

- 09:30 ◇ 9月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 19:00 ◇ 7-9月期南アフリカ経済研究所（BER）企業信頼感指数（予想：28）
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表（予想：1.50%で据え置き）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 21:00 ◎ 7月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比2.0%）
- 21:30 ◎ 8月米卸売物価指数（PPI、予想：前月比横ばい／前年比1.7%）
  - ◎ 食品とエネルギーを除くコア指数（予想：前月比0.2%／前年比2.2%）
- 21:30 ◇ 4-6月期カナダ設備稼働率（予想：81.8%）
- 23:00 ◇ 7月米卸売売上高（予想：前月比0.2%）
- 23:00 ◇ 7月米卸売在庫（予想：前月比0.2%）
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 12日 02:00 ◎ 米財務省、10年債入札

12日

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 08:50 ◇ 8月企業物価指数
- 08:50 ◎ 7月機械受注

## &lt;海外&gt;

- 08:01 ◇ 8月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

10日 08:56 トランプ米大統領  
「中国は貿易協定を望んでいる」  
「中国と来週協議する」

11日 01:03  
「ボルトン米大統領補佐官(国家安全保障担当)を解任した」

10日 17:05 ムーディーズ南ア担当アナリスト  
「2019年後半の南ア経済は上向くと予測」  
「10年以上による南ア政府の退廃は格付けに織り込み済み、鍵を握るのは今後の進展」  
「南アフリカ歳入庁(SARS)の改革は予想より遅れ、歳入の回復は遅くなるだろう」  
「財政政策の進捗は懸念材料」  
「エスコムへ対する最近の政府の支援はただ単に債務問題を一定に保っているだけで、いまだにエスコムの改革がいつ行われるかは不確実」

10日 17:22 シュルツ独財務相  
「2020年予算に新たな債務は含まない」

10日 17:28 マッケンティー・アイルランド欧州担当相  
「バックストップ策の代替案はまだ提示されていない」  
「ブレグジットの状況は毎日変わる」

10日 19:49 エルドアン・トルコ大統領  
「トルコはこれ以上シリアからの移民を対処できない」

10日 19:54 ホーガン次期EU貿易官  
「トランプ米大統領は国際貿易に関しては無謀だった」  
「米国との貿易を前に進める道を探したい」

10日 20:35 英首相報道官  
「今後数週間、首相はEU首脳達と協議を続けるだろう」  
「首相は合意を望んでいることを強調」

10日 21:18 カーニーBOE総裁  
「BOEは景気低迷時に対処する手段を持っている」  
「経済はリセッションに対応できる財政的手段をもっているが、限界がないわけではない」  
「通常は景気低迷を引き起こす、経済に大きな不均衡は見えない」

10日 21:38 ナバロ米大統領補佐官(通商担当)  
「米中通商協定に対して忍耐強くあるべき」  
「米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)は1-2カ月中の合意を望む」

10日 21:58 イングヴェス・スウェーデン中銀総裁  
「インフレ予想はやや低下したが、我々が懸念するほどではない」

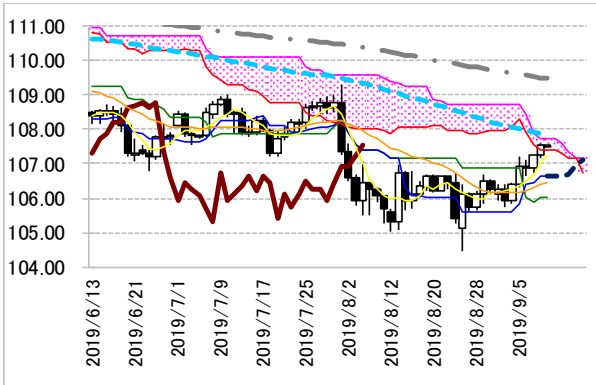
10日 23:14 ジョンソン英首相  
「英国はEUを10月31日に離脱するつもり」

11日 00:10 コンテ伊首相  
「イタリアはEU財政協定の改革を望む」

11日 00:30 パーデュー米農務長官  
「9月に米日貿易協定で合意すると期待」  
「米日の貿易協定は順調に進展している」

※時間は日本時間

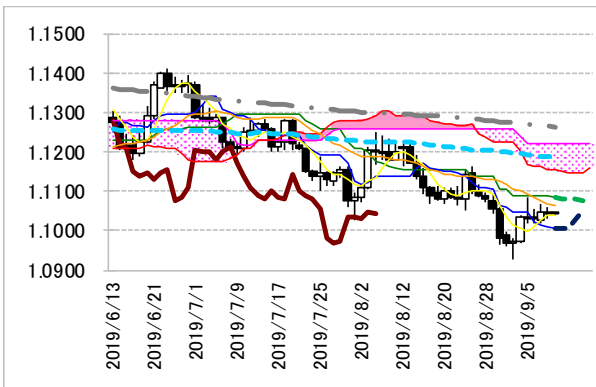
## 〔日足一目均衡表分析〕



### <ドル円=雲こなせば三役好転の強い買いシグナル点灯>

陽線引け。一目均衡表・雲の抵抗が位置する水準に達しても上昇の流れを維持した。8月1日以来の高値をつけている。雲の中へ入って、上向きの勢いを多少落ち着かせる可能性はある。107.86円前後で低下中の90日移動平均線も重し。しかし、一目均衡表・転換線は上昇基調を継続する見込みで、底堅い地合いが続いていることを示唆。多少もたついても、雲をこなして一目の主要指標すべてが買い示唆となる三役好転の強い買いシグナルを実現し、上値を伸ばすとみる。

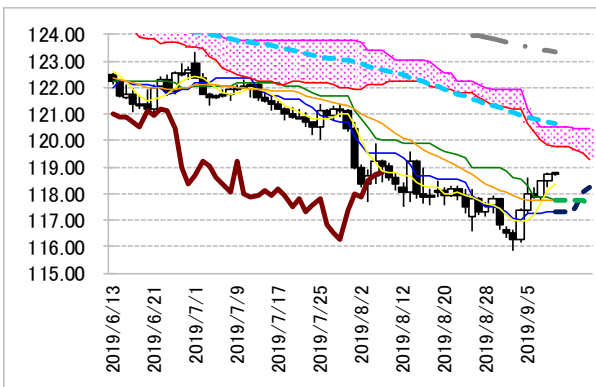
レジスタンス2 108.42(7/29 安値)  
レジスタンス1 108.11(9/3-5 上昇幅のN 計算値)  
前日終値 107.54  
サポート1 107.03(ピボット・サポート2)



### <ユーロドル=転換線が底打ちへ、底堅い展開を示唆>

小陰線引け。1.1040ドル前後で上昇中の5日移動平均線付近で底堅く推移した。一目均衡表・転換線と、基準線1.1084ドルに挟まれたレンジを維持している。短期的には、さらに狭い5日線と低下中の21日線に挟まれたレンジから、上下どちらへ放れるかをうかがう状況。転換線が本日1.1006ドルへ低下したところでしばらく横ばいの後、週明けに上昇へ転じる見込みであることを勘案すれば、下値は底堅そう。レンジ上放れに分があるとみる。

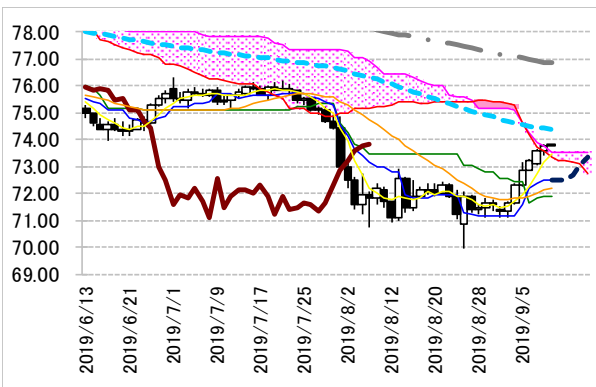
レジスタンス1 1.1116(8/27 高値)  
前日終値 1.1043  
サポート1 1.0987(9/3-5 上昇幅の61.8%押し)



### <ユーロ円=買いサイン増やしつつ今後も上昇へ>

下影小陽線引け。下押しを挟みつつも、118円台で上昇中の5日移動平均線へ近づいたところで下げ渋り、底堅い動きを継続した。8月15日以来の高値118.79円まで上昇し、5日線以外に下支えとなりそうな目立ったテクニカル指標が付近に見当たらないことから、調整の反落も想定できる。しかし、一目均衡表・転換線がやがて基準線を上抜くことが見込まれ、買いサインが増えそう。堅調な地合いが続くとみる。

レジスタンス1 119.28(7/30-9/3 下落幅の61.8%戻し)  
前日終値 118.76  
サポート1 118.27(9/10 安値)



### <豪ドル円=抵抗の雲こなす展開に>

下影小陽線引け。一目均衡表・雲を抜けつつある。8月1日以来の高値を73.84円まで更新した。本日73.53円へ低下後に横ばいとなる雲の上限や、雲の中で上昇中の5日移動平均線が下支えとなりそう。これらの水準がサポートになりきらず、低下が続く雲の下限に沿って調整が進んでも、下値の一目・転換線がやがて上昇し、支えとなることが見込まれる。

レジスタンス1 74.38(90日移動平均線)  
前日終値 73.78  
サポート1 73.45(5日移動平均線)

